

「総ざらい」の手法を総合計画の運用管理に生かす」と市長

第5次総合計画基本計画の変更について、4議員が総括質疑

11月30日から12月議会がスタートしました。初日の総括質疑には公明党の杉田議員、市民クラブの柳沢議員、日本共産党議員団の上野議員、市民ネット改革の吉田議員の4人が登壇しました。

4人全員が質疑で取り上げたのは第5次総合計画基本計画の変更についてです。基本計画なので、これまでならば議案とはならなかったのですが、11月1日に制定した議会基本条例で議決対象のひとつに入れたので、初めて質疑対象となりました。

柳沢議員、上野議員は、「基本計画の変更にあたり、事務事業の総ざらいの結果を反映させた」としていることについて質疑を行いました。村山市長は、「この度の変更における『事務事業の総ざらい等の反映』とは、総ざらいの手法を今後、計画の運用管理に生かしていくという趣旨だ。個々の事業に関する総ざらい結果については、基本計画の中に直接反映するもの



上野議員

ではなく、今後、計画を支える主要な事業を選定する際に活用することだ」と答えました。これからは毎年、事務事業の総ざらいを行うということも明らかにしました。

来年度予算編成基本方針で

は、「事務事業の総ざらい及び政策協議の結果を予算への確に反映させる」としています。総ざらいで「準備期間を設けて廃止」したものについて、関係団体の意見をどう聴いていくのか、地域協議会に対する諮問はどうするかなど疑問はまだあります。これらは6日の総務委員会審査で、具体的な答弁を求めていきたいと思えます。

ようやく新たな覚書と協定書締結

上野議員は質疑で、信越本線（脇野田駅）移設事業の実施設計委託が次年度にまで及ぶことになったことに関連し、覚書などの見直しが予定より遅れた経過について述べました。



11月24日、市民団体のみなさんとともに信越本線を視察してきました。現在、使っていない施設が多いのにびっくり。

上越市と新潟県

の要請で、同事業はJR東日本が「自社線の工事として行う」ことになりました。同事業をすすめるうえで関係団体間で覚書、協定書を交わしていますが、9月議会での私の質問に答えて市長は、「今月中には新たな覚書と協定書を締結することになるというふう

シリーズ 上越市内の橋 第55回 中の橋
「中の橋」と書いて「なかのはし」と読みます。柿崎区の中山間地から平場へと流れる黒川にかかった橋です。
木橋だった頃は、水害で橋桁を何回も流されていま



ます。近くに住む人の話では、下流まで捜しに出かけたとか、新しい木を切り出すなどの思い出がいっぱいあると聞いています。すぐそばにはくろかわ診療所があります。橋長は約16メートル。竣工は1987年（昭和62年）9月です。

上野議員に問われ、返ってきた答弁は、「関係者（団体）が多かったことや全面改定することとなったため、時間を要した」という言葉でした。私の質問は9月24日です。話し合いの最終段階で予期せぬ大きな問題が出てきたならば、わからないでもないですが、理解に苦しむ答弁でした。

私の一般質問は10日の予定

12月議会の一般質問が7日からはじまります。質問は通告順に行われます。私は21番目。上野議員の次です。いまのところ、10日の午後早くの見込みです。

私の質問テーマは、地域事業見直し、事務事業の総ざらい、そして市町村合併の中間評価の3つ。ケーブルテレビで放映されます。

空の青さを強く感じる場所があります。吉川地区の国田から源地区に入り、県道川谷十町歩線の岩平橋を渡ったところもそのひとつです。目の前にある、わずかに四戸の集落は標高一五〇メートルほどの山に抱きかかえられています。山の上に広がる空はこの日もひととき青く感じられました。

年を越せば直きに九五歳になるキヨさんの家は集落の一番奥。訪ねた時、キヨさんは南側の縁側にいました。いつも玄関や木戸先の道路の上などで何らかの仕事をしていた、じつとしていないことのない人ですが、この日はめずらしく日向ぼっこをしていました。陽だまりの暖かさが心地よいことはキヨさんの眼元を見ればわかります。普段でも細い目が一段と細くなっていました。「暖かくて、いいやんべだね」と声をかけると、「そいがね」という言葉が返ってきました。

縁側からは庭にある木や花が見えます。その先には、何枚かの田んぼも見えます。キヨさんの視線はそれらの方を向いてはいるものの、さらに遠くを見ているようにも見えました。暖かな日差しの中でじつとしていないと、はるか昔の景色など普段見えないものが見えてくるのかも知れません。じつに幸せそうでした。

一〇分ほどたってから、今度は隣の集落にあるトシさんの家に行きました。九二歳。息子さんは仕事に出ていて、いつもひとりでお留守番です。この日もそうでした。「いなくなったかね」と声をかけたら、いつもの居間からではなく、南側のカーテンの奥の方から声がありました。トシさんもまた、縁側で日向ぼっこをしていたのです。

ここでも、「いいやんべだね、暖かくなって。助かるね」そう語りかけると、トシさんは「こんがんだ日はもうけもんの日だこね。おら、ここにいるのが一番だわね、あつたくて……」と応じました。トシさんの家では、雁木の前にある大きな木は柿の木の本だけ。すでに葉も落ちて、からつとしています。太陽光線は縁側に降り注ぎ、板の間を暖めていました。

この日、一生懸命仕事をしている人もいました。トシさんのすぐ隣の家のYさん夫婦がそう、家の後ろにある車庫の二階からロープを使い、ハシゴのワクに沿ってすべらせながらスノータイヤを下ろしていました。かなり太めのタイヤです。どう見ても、息子さんの車のタイヤといった感じです。おそらく、家族みんなの車のスノータイヤが二階に置いてあるのでしょう。「仕事中心におじゃまして悪いね」そう言う、K子さんが手を休めて、私の相手をしてくださいました。

Yさん夫婦は集落の中でも真面目で仕事熱心なことで知られています。すでに秋の農作物の収穫作業はもちろんのこと、冬囲いもすつかり終わっています。家の周囲の片付けも行き届いています。Yさん夫婦は二人とも、やるべき仕事がないかをいつも考えているタイプの人なのです。この日は、車のタイヤ交換しようかと決めて動いていました。「頑張っているがだね」と声をかけたら、K子さんが言いました。「いい天気になって……、もうけもんの日だすけね」

一月も下旬になると、ぐずついた日が多くなります。悪天候を覚悟している時に、青空が出ようものなら、誰もが「もうけた」と言って大喜びします。私の生まれ育った蛸場まで行った時、ここにも鮮やかな青空がありました。釜平に立ち、屏風のような山々の紅葉を写真に撮ろうとした時でした。ふと、足元を見ると、小さなノギクが陽射しを浴びて花を広げているじゃありませんか。うれしい一日となりました。

今冬から除雪出動基準、除雪路線の区分見直し

	平成22年度			平成21年度		
	除雪延長 (km)	除雪車台数 (台)	1台当たり除雪延長 (km)	除雪延長 (km)	除雪車台数 (台)	1台当たり除雪延長 (km)
上越市全体	1,691.3	334	5.06	1,677.2	327	5.13
合併前の上越市	740.4	137	5.40	733.9	133	5.52
安塚区	71.4	17	4.20	70.9	16	4.43
浦川原区	65.9	10	6.59	65.2	10	6.52
大島区	33.3	20	1.67	33.3	20	1.67
牧区	73.2	17	4.31	73.2	16	4.58
柿崎区	124.0	15	8.27	122.8	15	8.19
大潟区	76.7	17	4.51	76.7	17	4.51
頸城区	104.6	19	5.51	104.6	19	5.51
吉川区	85.6	12	7.13	85.2	12	7.10
中郷区	24.3	13	1.87	24.3	13	1.87
板倉区	95.7	18	5.32	84.6	18	4.70
清里区	51.1	8	6.39	51.1	8	6.39
三和区	102.7	18	5.71	109.1	17	6.42
名立区	42.4	13	3.26	42.3	13	3.25

※ 除雪延長及び除雪車台数は、早朝除雪に係る延長及び台数である。

上越市はこのほど、今冬の除雪計画を明らかにしました。

昨冬は、短期間に集中して降雪があったことなどから市民生活や経済活動に大きな支障が出ました。これを教訓に、今冬の計画では、道路除雪の路線区分や出動基準を見直しています。

除雪路線についてはこれまで、1種路線から3種路線まで3つに区分していましたが、今冬からは救急指定病院の周辺などを「特1種路線」に指定し、異常降雪の際でも24時間交通を確保することを明確にしました。

また、除雪出動基準については、これまで明確でなかった除雪出動を判断する時間を決めています。出動の判断時間は午前2、7、11時、午後5時です。早朝、午前、午後、夜間の4つの時間帯で除雪を行う体制にしています。詳しいことは市役所雪対策室、または各区総合事務所産業建設グループにおたずねください。なお、市のホームページにも掲載されていますので、ご覧ください。